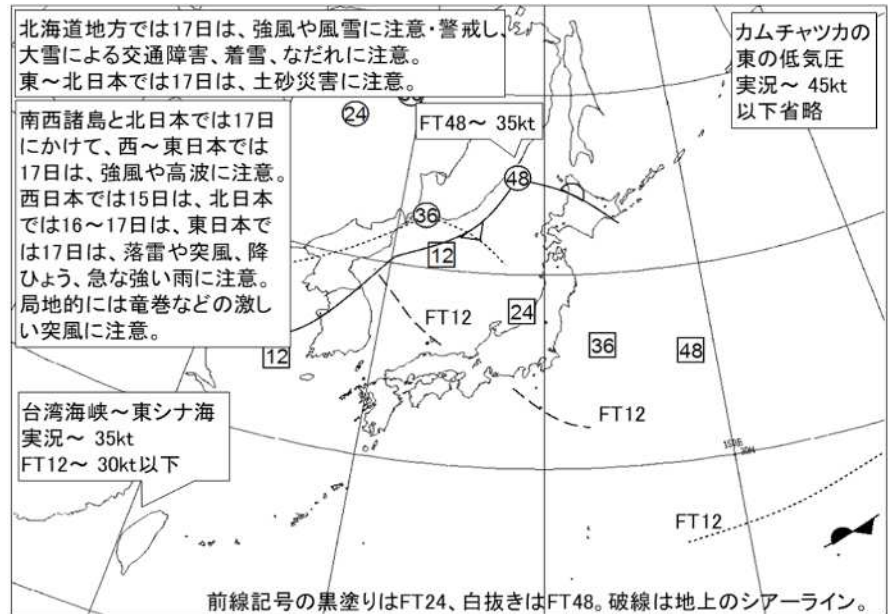


1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が中国東北区と東シナ海にあって、日本付近へ張り出している。日本海西部と東海道沖から日本の東にかけて地上のシアーラインがのび、シアーライン周辺では、雷を検知し激しい雨を解析。
- ② カムチャツカの東の発達した低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなっており、北日本では波が高くなっている所がある。また、①の高気圧の縁辺では気圧の傾きが大きくなっており、南西諸島ではやや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のシアーライン周辺では、下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。西日本では15日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。なお、1項①の中国東北区の高気圧は15日朝には日本海へ移動し、シアーラインは次第に不明瞭になる。
- ② 16～17日は、500hPa -39℃以下の寒気を伴う寒冷渦が中国東北区からオホーツク海へ進む。寒冷渦周りのトラフに対応し、16日朝までに沿海州付近で低気圧が発生し、17日はオホーツク海へ進み、寒冷前線が17日に西～北日本を通過する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり雷を伴った強い雨の降る所がある。東日本では17日は、北日本では16～17日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項②の寒冷前線が西～北日本を通過後、日本付近は17日は次第に西高東低の冬型の気圧配置となり、北日本には500hPa -30℃前後、850hPa -9℃前後の寒気が流入し、大雪となる所がある。北海道地方では17日は、大雪による交通障害や着雪、なだれに注意。一方、本州の日本海側ではやや強い雨が降り続き大雨となる所がある。北陸地方と東北地方では17日は、土砂災害に注意。
- ④ 1項②の波の高い状態は、北日本では15日夜、南西諸島では16日にかけて続く。また、2項②の前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなること、及び2項③の冬型の気圧配置の影響で、強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。南西諸島と北日本では17日にかけて、西～東日本では17日は、強風や高波に注意。北海道地方では17日は、強風や風雪に注意・警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・沖縄3m。
- ④ 高潮(明日まで)：東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。